

とや英津子のニュースレター

TOYA ETSUKO Newsletter

●ホームページ



事務所：練馬区桜台1-6-11 TEL:03-6324-8060

コロナ禍で

急がれる生活困窮者対策

予算委員会(3月8日)で小池都知事らに質問しました



コロナの感染拡大が長引く中、都民のくらしは一層厳しさを増しています。昨年の生活保護申請数は全国で235,063件と前年比約5%増加、この格差拡大について質問。知事は「コロナ禍の影響で…都民生活に様々な影響を及ぼしております」と、影響を認める答弁をしました。

私は都民の姿を直視し、実態に光を当てた対策強化を求めました。

住まいは人権 家賃補助や、都営住宅の新設を

都の公社住宅にシングルマザーや低収入の女性、若者が安い家賃で入居できるよう家賃補助の適用を求めました。また、今こそ、石原都政以来ゼロの、都営住宅の新規増設・建設が必要と迫りました。

生活保護は権利 対応改善を福祉事務所に徹底を

共産党都議団が、都に「生活保護の利用は国民の権利」と呼びかけるよう求め、都はホームページに「生保保護の申請は国民の権利」と掲載するようになりました。しかし、生保申請のため窓口に行ったのに「若いだから働けるでしょ」と、追い返されたなどの相談が絶えません。

都と区市の福祉事務所窓口への徹底が重要です。

さらに、都の福祉事務所のHPで「国民の権利」であることが掲載されていない所もあるため、ただちに改善を求めました。その後、全ての都福祉事務所のHPが改善されました。

引き続き、困窮者支援の強化を求めています。



破綻は明瞭、外かん道工事は今すぐストップを 予算委員会

外かん道の工事で、陥没事故の周辺住民が工事差し止めの仮処分申請を行い、東京地裁は南側の9%の工事差し止めを決定しました。小池知事に、この「決定」についての認識を質しましたが、この期に及んでも「外かんは…重要な道路」などと答弁しました。

私は、都民の命と財産を守るべき都知事として情けない。知事の責任が問われる、事業の認可を取り消すべきと迫りました。

外かん道 またトラブルで工事停止

4月7日 外かん道のシールドマシンが、練馬区大泉町で事故を起こし工事が停止しています。事故は大泉ランプ付近の地中壁にマシンが接触し損傷しました。その結果、約6か月は工事停止に。



いちよう
銀杏並木と緑 971本バツサリ

2月に都が
都市計画決定

神宮外苑の再開発計画は白紙に

ラグビー場、野球場などスポーツ施設が集中し、樹齢100年の銀杏並木などで有名な神宮外苑の再開発計画に、市民から「環境と緑の破壊」との声が上がっています。



開発計画の概要と緑の破壊実態は

再開発計画では、樹木の971本が伐採、70本が移植される見通しです。

テニスコートの移設により、絵画館前の芝生広場の多くの樹木が失われます。またラグビー場の移転で、建国記念文庫の樹木の半分以上が失われます。

神宮外苑のシンボルの銀杏並木は樹高17~28mで青山口から絵画館前の芝生広場に向かって植えられています。再開発で、途中のラグビー場に向かう18本の兄弟木は全て伐採され、並木の西側すぐそばに高さ60mの巨大なホテル併設野球場が建設されます。また、高さ185mと190mの超高層ビルが新設されます。

市民のスポーツ拠点が奪われ、国立競技場は国際大会もできない施設に！

軟式野球場やゴルフ練習場、フットサル場など多くのスポーツ施設が失われます。また当初の計画にあったサブトラックが消滅したことで、国立競技場は国際大会どころか、日本選手権など国内大会も開けなくなります。

このような計画に、ユネスコの諮問機関の日本イコモス国内委員会は、神宮外苑の景観は「20世紀初頭の都市美運動が結実したもの」と指摘し、代案を提案。3月には再開発の見直しを求める5万人以上のネット署名が知事に出され、高校生も独自に署名を提出するなど反対の声が広がっています。

突然、超高層ビルふくむ計画に変更

2012年の都の資料では、超高層ビルの建設計画はなく、後から割り込んだことが共産党都議団の調査で明らかになりました。事業者の利益になる商業施設が入る超高層ビル設置に変更した結果、樹木の伐採や景観の破壊など矛盾をはらんだ計画に変わっていった可能性が大きく、都の責任は重大です。

